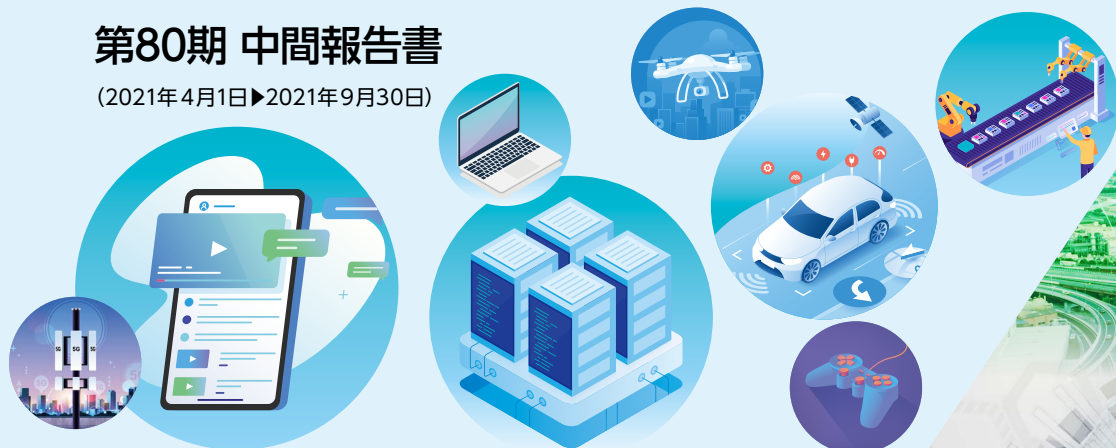


## 第80期 中間報告書

(2021年4月1日▶2021年9月30日)



## Enabling Leading-Edge Technologies

### 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第80期の中間報告書をお届けいたします。

当年度上期の当社をめぐる事業環境を振り返りますと、半導体市場においては、巣ごもり需要の継続や社会全般のデジタル化により、データセンター、AI、パソコン関連の半導体需要が堅調に推移しました。また、スマートフォン向け半導体の高機能化と需要増も進展しました。これらを受けて、先端プロセスで製造される半導体に対する高水準な設備投資が維持されました。

加えて、コロナ禍からの経済回復と相まって半導体の供給不足が顕著となったことで、半導体の生産能力増強に向けた投資が活発に進められました。

これらの結果、当年度上期の受注高は3,650億円、売上高は1,880億円、営業利益は475億円、当期利益は352億円となりました。

今後の事業環境を展望しますと、半導体不足を解消するための能力増強投資は当面持続するものと予想しています。また、一層の半導体高性能化を実現するための技術投資の必要性も高まっています。これらを総合すると、短期的にも中長期的にも、半導体およびその関連市場の良好な環境が期待されます。

当社においては、下期も一定の受注水準が継続すると見込まれます。売上高については、部材調達を安定させ、製品供給の改善を最大の課題として取り組むことで、今後の増収を目指します。

当年度通期の業績予想につきましては、受注高を2021年7月時点の4,000億円から5,650億円へ、売上高を3,850億円から4,000億円へ、営業利益は1,000億円から1,050億円へ、当期利益は750億円から788億円へ、それぞれ上方修正しました。

当社は、外部環境の変化に機動的に対応することを最優先事項とし、2021年5月に公表した第2期中期経営計画の達成に向けて、全社一丸となり邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役兼執行役員社長(CEO)

吉田 芳明



# アドバンテストグループ 第2期中期経営計画

当社は、2018年に、中長期経営方針「グランドデザイン(10年)」と最初の3ヵ年計画である第1期中期経営計画(2018~2020年度)を策定しました。

2015年から2017年までの実績と比べると意欲的な数字を目標に掲げましたが、結果として、全指標で目標を大きく上回る業績を達成できました。

第1期中期経営計画が成功裡に終了したことを踏まえ、当社は、2021年5月に、中長期経営方針「グランドデザイン」を更新し、2021年度から2023年度までの第2期中期経営計画を策定しました。

## 1. グランドデザインのアップデート

<p><b>経営理念(パーパス&amp;ミッション)</b></p> <p>先端技術を先端で支える</p> <p><b>ビジョン・ステートメント</b></p> <p>進化する半導体バリューチェーンで顧客価値を追求</p>	<p style="text-align: center;"><b>戦略</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① コアビジネスの強化、重点投資</li> <li>② オペレーショナル・エクセレンスの追求</li> <li>③ さらなる飛躍への価値探求</li> <li>④ 新事業領域の開拓</li> <li>⑤ ESGのさらなる推進</li> </ol>
---	---

**外部環境予測を踏まえ、既存の基本方針を踏襲しつつ、5つ目の戦略を追加  
事業活動を通じ、サステナブルな社会の実現に貢献**

当社を取り巻くメガトレンドと社会情勢や外部環境予測を踏まえ、グランドデザインを再検討した結果、既存の4つの基本方針を踏襲しつつ、「ESGのさらなる推進」を5つ目の戦略として追加しました。

## 2. 第2期中期経営計画 財務目標

	第1期中期経営計画目標 ベースシナリオ: FY2018-20平均	第1期中期経営計画実績 FY2018-20平均	第2期中期経営計画目標 FY2021-23平均
売上高	2,500億円	2,904億円	3,500~3,800億円
営業利益率	17%	22.3%	23~25%
当期純利益	—	601億円	600~700億円
ROE	18%	29.1%	20%以上
1株当たり利益 (EPS)	170円	309円	320~370円

デジタル革命を背景とした半導体の生産数量の増加や、半導体の技術進化・複雑化の進展を通じ、半導体テストの市場規模は今後中期的な拡大が予想されます。そうした事業環境を踏まえ、グランドデザイン達成に向けた道筋をより確実なものとするべく、第2期中期経営計画を策定しました。

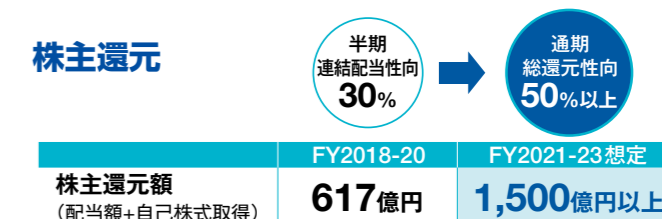
財務目標としては、売上高は、3,500~3,800億円、営業利益率は23~25%、当期純利益は620~700億円、ROEは20%以上、1株当たり利益は320~370円をそれぞれ目標としました。

## 3. 第2期中期経営計画における成長投資、株主還元

### 成長投資

	FY2018-20実績	FY2021-23投資枠
M&A等戦略投資	477億円	1,000億円
設備投資	302億円	400億円

### 株主還元



成長投資枠は、第2期中期経営計画期間累計で、戦略投資に1,000億円、設備投資に400億円としています。株主還元については第2期中期経営計画期間における安定的な事業環境を前提として、配当を半期配当性向30%から、1株当たり配当金半期50円・通期100円を基準額とする金額基準に変更いたしました。通期総還元性向は50%以上を目途とし、配当や自己株式の取得を通じて株主還元を強化するとともに資本効率の向上を図ります。

\*総還元性向: (配当額+自己株式取得)÷連結当期純利益

## 4. ESGのさらなる推進

3つの軸を意識したバランスのとれた活動を通じ、将来利益額(キャッシュフロー)を持続的に拡大

### 1 株主価値

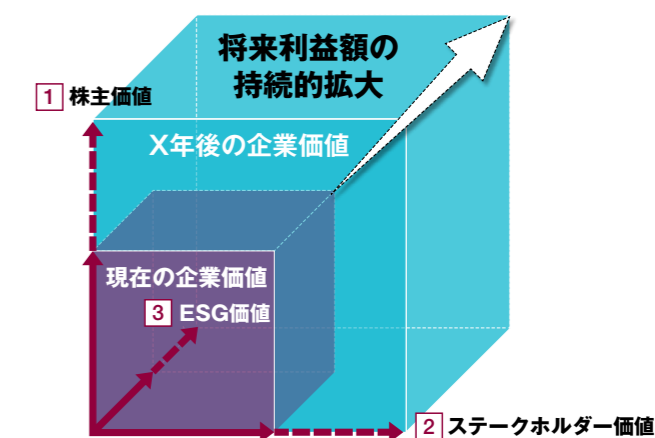
- ROE - EPS
- ROIC

### 2 ステークホルダー価値

- 顧客価値向上
- サプライチェーンとのパートナーシップ
- 従業員エンゲージメント、人財開発・育成

### 3 ESG価値

- 気候変動対応
- 公正な取引
- ダイバーシティ&インクルージョン
- 将来世代への対応
- 人権の保護、尊重



株主価値、ステークホルダー価値、ESG価値の3つの軸をバランス良く追求し、企業価値拡大を図ります。ESGのさらなる推進のため、当社では、人権尊重、人財開発・育成など、人的資本に関するサステナビリティ要素の強化や気候変動への取り組み強化も並行して推進してまいります。

「ESGのさらなる推進」を実践するために、ESGについて取締役会などで議論をしました。その結果、当社は、2021年7月1日付にて新たに「ESG推進基本方針」を制定し、ESG推進の経営指針としました。

今般策定したESG推進基本方針の下、当社グループは、今後も、グループ一丸となってESGに関する取り組みを推進してまいります。

※ 中期経営計画については当社HPをご覧ください。

<https://www.advantest.com/ja/investors/management-policy/management-policy.html>



※ ESG推進基本方針については当社HPをご覧ください。

<https://www.advantest.com/ja/sustainability/advantest-sustainability/ESGpolicy.html>



# 気候変動への当社の取り組み ～TCFD提言への取り組み～



当社は、持続的な成長のためには気候変動がおよぼす業績および財務状況への影響の評価が必要という考えのもと、2020年4月、「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)\*」の提言に賛同し、同提言に基づいた情報開示に取り組んできました。気候変動にかかるリスクと機会は次の通りです。

## 2°C未満シナリオ:脱炭素社会への移行リスク

カテゴリー	主なリスク	対応・戦略	時間軸
政策および法規制	炭素税導入による部品代や製品価格の高騰	サプライチェーン全体でのCO <sub>2</sub> 削減マネジメントの推進	短期
技術	低電力と小型化といった省エネ性能向上への要求の高まりとテスト性能向上の両立 上記顧客要求に応えられないことによる売上減少	省エネ技術の研究・開発、次世代に対応する人材づくり	中期
市場	新しい半導体の普及	新たなテスト方式の研究とテスト装置の開発	長期
評判	GHG排出量削減計画の遅延にともなうステークホルダーからの評判低下	ロードマップに基づく再エネ導入および省エネ計画の着実な実施	短・中期

## 4°Cシナリオ:気候変動にともなう物理的リスク

カテゴリー	主なリスク	対応・戦略	時間軸
急性的・慢性的	大型台風や集中豪雨によるサプライチェーンの断絶	事業継続計画による対応	長期

## 気候変動関連の機会

カテゴリー	主な機会	対応・戦略	時間軸
製品およびサービス・市場	デジタル革命による半導体需要のすそ野の広がり とテスト市場の拡大	省エネ技術の研究・開発	中期
製品およびサービス・市場	新しい半導体の普及	新たなテスト方式の研究とテスト装置の開発	中期
評判	レジリエントな企業としての社会的信頼の獲得	ロードマップに基づく再エネ導入および省エネ計画の着実な実施	中期

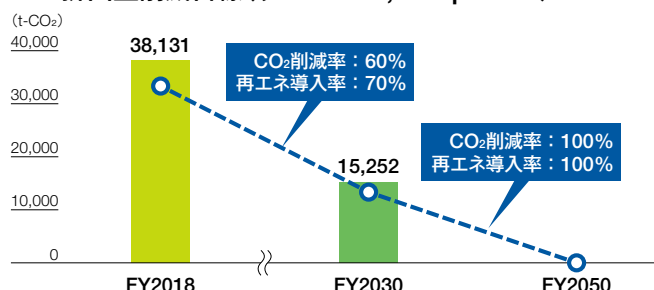
表中の時間軸については以下の通りです。

短期(現在から2025年まで) 中期(現在から2030年まで) 長期(2050年まで)

これに伴う当社のCO<sub>2</sub>削減目標は下図の通りです。

再生可能エネルギー導入率	2030年までに <b>70%以上</b> 2050年までに <b>100%</b>
GHG排出量 (Scope1,2)	2030年までに <b>2018年比60%削減</b>
1テスト当たりの平均CO <sub>2</sub> 排出量	2030年までに <b>2018年比50%削減</b>

## CO<sub>2</sub>排出量削減目標(グローバル, Scope 1+2)



TCFD提言に基づいた詳細の開示内容は上記のほか、ガバナンス、戦略、リスク管理等多岐にわたります。

詳細につきましては、当社の統合報告書をご覧ください。

詳細は当社HPへアクセスいただき、是非統合報告書をご覧ください。

<https://www.advantest.com/ja/investors/ir-library/annual.html>

アドバンテスト 統合報告書



\*「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures)」

国際機関である金融安定理事会(FSB) によって2015年12月に設立されたタスクフォース。

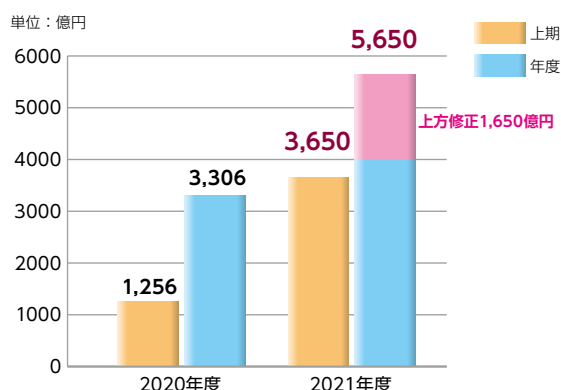
2017年6月の最終報告書では、企業等に対し、気候変動関連リスク及び機会に関する項目について情報開示することを提言した。

# 決算ハイライト (2021年4月1日～2021年9月30日)

## 受注高 3,650億円 [前年同期比 2.9倍]

世界的な半導体不足を背景とした半導体メーカー各社の生産能力増強の動き、微細化が進むアプリケーション・プロセッサやハイ・パフォーマンス・コンピューティングデバイス向けの半導体テスト需要の伸長などにより、受注高は前年同期の2.9倍の3,650億円となりました。

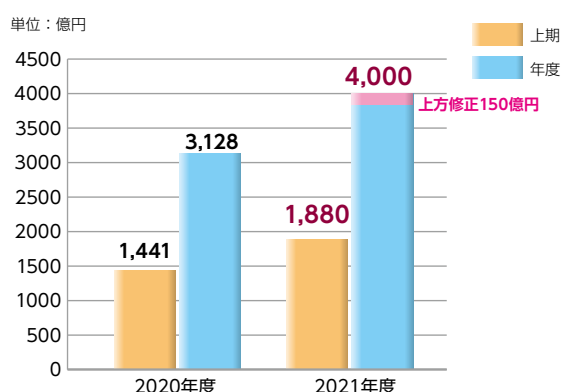
今後は上期に生じた急峻な受注増の反動を見込むものの、下期も一定の受注水準が見込まれることから、受注高の通期予想を1,650億円上方修正しました。



## 売上高 1,880億円 [前年同期比 30.5%増]

半導体テストの需要拡大にシステムレベルテスト事業の成長が加わったことなどで、売上高は前年同期より30.5%伸び、1,880億円となりました。

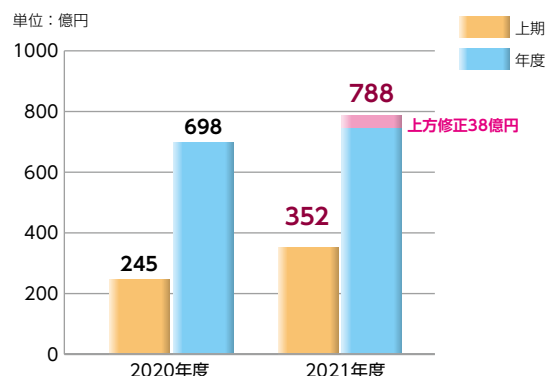
世界的な半導体不足が長期化する中、部材調達の安定化が課題となっているものの、上期末時点で高水準な受注残を有していること、および半導体テスト市場において良好な環境の継続が今後も見込まれることを踏まえ、売上高の通期予想を150億円上方修正しました。



## 当期利益 352億円 [前年同期比 43.9%増]

法人税等の増加がありましたが、それ以上に売上高が伸びたことに伴い、当期利益も前年同期より43.9%伸び、352億円となりました。

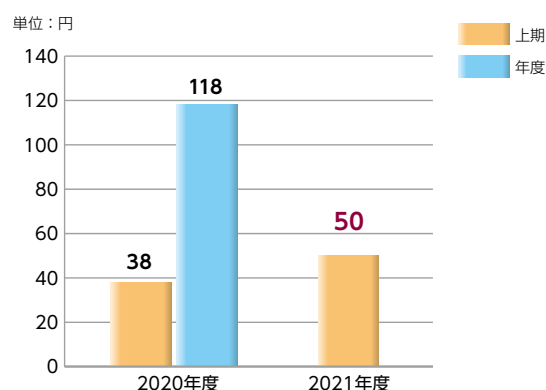
売上高上方修正にともない、当期利益についても、通期予想を38億円上方修正しました。



## 1株当たり配当 50円

株主の皆様への中間配当金につきましては、1株につき50円とし、2021年12月1日を支払開始日といたします。

当社は、通期総還元性向50%以上を株主還元方針とし、配当については、一株当たり配当金半期50円・通期100円を基準額としています。当該方針に基づき、中間配当を50円に決定いたしました。



※ 財務諸表、計算書の詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.advantest.com/ja/investors/ir-library/result.html>



# 当社グループの外部からの評価

## —VLSresearch社顧客満足度調査にて2年連続第1位を獲得—

DX(デジタル・トランスフォーメーション)の加速度的な拡大を支える半導体は、SDGsの目標9に掲げる「産業と技術革新の基盤をつくる」において重要な役割を担っています。

その目標を達成するため、当社は、最先端の計測技術、業界No.1の製品ポートフォリオ、総合サポート力をもって半導体の高機能・高信頼性を支える顧客のベストパートナーとなることを日々心がけています。

このような当社の取り組みを客観的に把握するためにも、当社は半導体に関する市場調査会社VLSresearch社の顧客満足度調査\*に毎年参加していますが、このたび、2年連続で半導体製造装置メーカー顧客満足度第1位を獲得しました。

また、半導体製造装置(ラジサプライヤー)部門の「10 BEST Suppliers」を33年連続で受賞しました。

当社は、半導体がより高機能化、複雑化する中、これからもテストソリューションの開発を通じて「安心・安全・心地よい」社会の実現に貢献していくとともに、ESG推進基本方針の中で掲げた、顧客を尊重し、顧客のニーズを満たす高品質の製品・サービスを安定的に提供することを引き続き実践してまいります。



\*1988年から毎年行われているVLSresearch社の顧客満足度調査は、顧客からのフィードバックが得られる業界唯一の調査として知られています。

### 会社の概要 (2021年9月30日現在)

商号	株式会社アドバンテスト ADVANTEST CORPORATION
本店	東京都千代田区丸の内1丁目6番2号
本社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング TEL. 03-3214-7500
設立	1954年12月2日
従業員	5,368名(連結) ※上記従業員には、パートおよび嘱託従業員を含んでおりません。
上場	東京証券取引所第1部(コード:6857)

(注意)

#### ◆会計基準について

本中間報告書に記載されている見通し数値は、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

#### ◆将来の見通しに関する記述について

本中間報告書にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

### 配当金のお支払について

配当金は、支払開始の日から満3年を経過いたしますと、定款の定めにより、お支払いができなくなりますので、お早めにお受け取りください。

なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

受付時間: 平日9時~17時

※株式に係る各種お手続きにつきましては、こちらをご覧ください。

<https://www.advantest.com/ja/investors/shares-and-corporate-bonds/share-information.html>



**ADVANTEST®**

<https://www.advantest.com/>

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング  
TEL. 03-3214-7500



環境に配慮し、植物油インクを使用しています。